KSKS

花の会ニュース

２０２３年７月号
no.197

編集人／ 社会福祉法人 花の会　広報委員会 連絡先／ 〒569-1042 高槻市南平台 3-29-9
TEL 072-692-2859　FAX 072-693-3603
★WEB　https://hananokai.info/　★E-mail　hana-net@minos.ocn.ne.jp

２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２-２　東興ビル４階　定価１００円

花の会総会 を開催しました

（第１回（新）花の会後援会総会）

６月24日（土）10：00～12：00、全事業所のメンバー・家族・ワーカーが参加して、高槻城公園芸術文化劇場北館３階レセプションルームにおいて、「花の会総会」を開催しました。オープニングにHKUの皆さんのダンス。「花の会」と「花の会後援会」が統合して発足した「(新)花の会後援会」の第１回総会があり、議事の承認。続いて法人の活動報告、当事者会の発表などが行われました。今年は花の会創立40周年の節目の年となります。厳しい状況もありますが、みんなで一致団結して前進していきましょう！

（第２共働舎花の会　牛嶌　亮）

最初にＨＫＵの皆さんが登壇

当事者会より

エピソードの「記述」

「エピソード記述集」という冊子を先日、発刊した。ベースは鯨岡峻さんの提案された「エピソード記述」という取り組みを全体でやってみようということで、一人ひとりから提出されたものをまとめたものである。森口弘美さん（天理大学）にもアドバイスをいただきながら、初めの第一歩となるもので、提唱者の意図を十分反映した内容とは、到底言い難いものです。

メンバーを訓練する、保護する、指導することを基本とする「支援感」から、個々の主体や周りとの関係性を重視した「共に生きる」ことの関わりへの移行、あるいは、気付きをすすめるための取り組みです。ケース会議や事例検討とは異なる、まずは目線をメンバーと同じ高さに移行するため、日々のエピソードから支援者自身やメンバー自身の心の在り様や変化に気付くことが目的でした。でも、実際は心まで掘り下げてみるのは、難しい作業であることを確認しつつ、継続した取り組みを行います。

先日、浜田寿美男さん、西川勝さんと出会うことがあり、浜田さんが出版された『「発達」を問う　今昔の対話　制度化の罠を超えるために』（2023　ミネルヴァ書房）の話では、これまでのものをまとめた、という説明があった。著書には、「知が制度に組み込まれたとき、事態は逆転して、制度としての知の内部から問いが発せられ、その答えも知のなかに閉じて、私たちの生きる場に還帰することがない。」と疑義を発せらている。

制度に絡めとられている現状は、自身もそうだし、ワーカーにも、家族にも広がっている。本来の「共に生きる」に回帰するために、何が必要なのか。花の会という地域の輪に関係する皆が、市場原理の社会や制度の利用者としてしか見られない現状の中で、何とか「共に生きる」ことの内実を創り出すために、メンバーもワーカーも家族も地域も、つながって生きられる場となることが必要です。人と人の関わり、関係を、事業所と契約者や支援者と利用者といった関係ではなく、人と人の関係という当たり前に戻していくことが、地域の中で花の会が継続した役割を担う意味があると考える。エピソード記述は小さな一歩であるが、歩む道は永遠に続いている道である。

（やまだのかかし）

黒瀬（くろせ） 京（みやこ） さん　はなみずき　生活支援員　職員の声・支援への思い

黒瀬　京 さんのプロフィール

- 2022 年４月花の会入職。
- 2022 年度は「共働舎花の会」のワーカーとして支援の経験を積まれました。
- 2023 年４月から「はなみずき」に異動となり、パン製造の担当として活躍されています。
- 趣味は推し活。配信者グループの【すとぷり】にはまっていて、ライブにも遠征されているとのこと。青色のころん君と、黄色のるぅと君が推しだそうです。分からない人は検索してみてください！

Q 入職のきっかけを教えてください。

黒瀬：元々は高校・大学と保育の学部にいたんです。花の会を知ったのは、大学２年生の実習がきっかけでした。保育実習の一環で、福祉施設にも行くっていうのがあって。

福祉施設に行く前に、幼稚園実習とか保育園実習とかにも行ってたんですけど、その中で「自分がこの職に合ってるのかな…？」っていう迷いが出てきていたんです。

保育の実習や勉強をする中で、子どもと接するのは楽しかったんですけど、裏の…職員間の人間関係とかが、自分には合わへんのかなって思い始めてたんですよ。上下関係というか…、そういうことで実習中に一回嫌な気持ちになるようなこともあって。それで迷っていた時期に花の会に来させてもらったんです。

実習先は共働舎花の会やったんですけど、その時メンバーが気軽に話しかけてくださったり、職員の方も「分からんことあったらいつでも言ってね」って言ってくれたりで…、現場の雰囲気がすごくいいなと感じたんです。最終的に入職したいと思った決め手はそれでした。

Q 実習の時の印象的な出来事はありますか？

黒瀬：２週間の実習期間で、屋上菜園を一緒にやらせてもらいました。

まず菜園が本格的でびっくりしたのと、メンバーが作業をサクサクこなしていたことにもすごく驚きました。ワーカーもメンバーのことを信頼していて、一人でできるメンバーには一人で作業を任せたりとか…、そういう関わり方は、保育とは違うなと思って印象に残っています。

Q「はなみずき」の仕事で楽しいなと思うのはどんな時ですか。

黒瀬：まだまだ覚えることがいっぱいで、大変やなと思うことの方が多いんですけど…。でもその中で楽しいなと思うのは、やっぱりメンバーと関わっている時です。

２か月くらいは「作業を覚えな…！」っていうので必死になってて、あんまり周りが見えてなかったんですけど、ちょっとずつ周りが見えるようになってきて、メンバー一人ひとりの個性も分かってきたりして…。一緒に作業していて、面白いなって思っています。

例えば、結構年の近いメンバーがいて、その方は漫画とかアニメとか、おもちゃが好きな方なんです。で、私も漫画やアニメが好きなので、結構話が合って。

最近はメンバーの方からノートに自分で描いたイラストを持ってきて、「これ描いてきてん」って見せてくれたりもします。それを一緒に見て、「すごいね！」っていう話をしたりとか。お互いに好きなキャラクターの話で盛り上がったり、そんな話をしてたら、他のメンバーも「何なに～？」って来てくれたりとか。そんなのが話を作るきっかけになって、メンバーと打ち解けてきてるなと思えるのは嬉しいですね。

Q 苦労したのはどんなことですか。

黒瀬：自分は覚えが悪いので、作業を一から覚えていくっていうのは「はなみずき」でも「共働舎花の会」でもだいぶ苦労しましたね。

あと、提案というか、新しいことを考えないといけないのも最初は大変でした。

入職してすぐくらいで、紙すきの主担をさせてもらったんです。紙すきでは基本はハガキを作っていたんですけど、ハガキ以外の形のものも作りたいよねっていう話が出て…。私は覚えも悪いんですけど、発想力もないもんで…、何も思いつかなかったんです。だから周りの職員に「何かいい案ありませんかね」とか聞いたりもしていました。

その時は「うちわにしたらいいんちゃう？」っていう案をもらって、ハガキにはできないような形とかサイズになってしまったものを利用して、メンバーの好きな形に切ってもらって、うちわの骨組みにペタペタ貼って、みんなでうちわを作りました。

そんな感じで、みんなにアイデアをもらって乗り切っています。

メンバーとのやり取りも、最初は難しかったです。気持ちを言葉にできなかったり、お話できないメンバーもいるんですけど、やっぱりジェスチャーとか身振り手振りとかで何かを伝えてこられるんですよ。例えば怒ってる時とかは、今でこそ雰囲気とかで分かるんですけど、最初は怒ってるかどうかも分からなくて。

人って興奮してる時に話しかけられたら、もっとボルテージが上がったりするじゃないですか。そのメンバーが怒ってることが分からないまま話しかけてしまって、もっと「わー！！」っとさせてしまったこととかもあります。

それも先輩ワーカーに「こんなことがあったんですけど…」って相談したら、「とりあえず落ち着くまでそっとしとくことも大事やで」「落ち着いてから話しかけたら、ちゃんと気持ちも伝えてくれるから」って教えてもらって、それでちょっとずつ関わり方も覚えていった感じです。

そうやっていろいろ、「失敗してもやってみよう」って思えるのは、入職した頃に山口さんに、「失敗を恐れたらあかん。」「失敗して人は学んでいくもんやから、今はどんどん失敗していき」って言われたことが大きいんです。

「失敗してはじめて、『こうすれば良かった』って思えるから、自分の思ったことをどんどんやっていき」「あかんかったら周りがフォローしてくれるから」って。それが一番心に刺さって、今も背中を押してくれているというか…、気持ちも楽になったんですよね。

周りのワーカーも「何でも言ってー」とか、「手伝うよー」とか言ってくれるし…、みんな優しいですね。

Q 支援で大切にしていることは何ですか？

黒瀬：一番はメンバーとの関わりです。もちろん作業を覚えることも大事なんですけど、やっぱりメンバーと関わるのが一番大事だと思っています。

今はパン班のみんなのことを知るので精一杯なんですけど、お菓子班のメンバーのことも知って、しっかりコミュニケーションを取って、信頼関係を築いていきたいです。

Q 今後の目標を教えてください。

黒瀬：はなみずきの中で、「新しいパンの種類も作りたいね」という話も出ているんですけど、そういう企画にも関わっていけたらいいなと思います。はなみずきではアレルギー対応のものを作っていますので、「作ってみたいパンがある」→「それをアレルギー対応の材料で作るにはどうしたらいいか」とかも考えていかないといけないんですけど。そういう所でも、ちょっとずつでも貢献できたらな、と思います。

インタビューを終えて

仕事のこと、趣味のことをたくさんお話してくださり、とても楽しい時間でした。

先輩ワーカーからたくさん助けてもらっていると話してくれた黒瀬さん。業務への向き合い方が、周りのワーカーをそうさせるんじゃないかなと感じます。

（取材：田淵　彩子）

齊野平 春男さん スキップの計画相談を利用　相談支援のなかで

齊野平 春男さんのプロフィール

- 2013年４月から、花の会相談支援センタースキップの計画相談を利用。同時期に他法人の生活介護事業所の利用を開始
- 2021年10月よりグループホームの利用を開始
- 生活介護事業所では、作業でエース級の働きをしておられ、他の利用者さんへの気遣いも得意

スキップの計画相談を利用されて以降、生活介護・グループホームの利用を経て成長著しい中、近々就労継続支援Ｂ型の利用を計画中と、順調にステップアップをしておられる齊野平さん。今回はそんな齊野平さんの現在や将来の想いをお聞きしました。

Q 初めてホームに住むことになって、不安に思うことはありましたか？

齊野平：不安は無かった。新しい生活が楽しみでした。

Q 実際に暮らしてみて、いかがですか？

齊野平：ホームの生活は楽しいです。

Q 始めはホームでどういう風に生活をしてよいか分からなかったと思いますが、今は何かお手伝いをすることなど、ありますか？　また、ご自宅ではどうしておられましたか？

齊野平：自分のお箸や食器を洗っています。洗濯物は自分の部屋で干しています。

家ではどうしていたかは覚えていないです。

Q 最近できるようになったことはありますか？

齊野平：公衆電話の使い方を覚えました。バスに乗り遅れた時などは、テレフォンカードを使って、ホームと生活介護事業所の両方に連絡をしています。

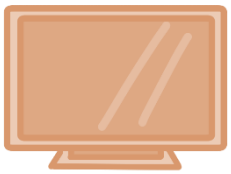
朝行く時にバスに間に合わなかった時は、生活介護事業所に連絡をしたら迎えに来てくれます。

Q 公衆電話の使い方は、どうやって覚えたのですか？

齊野平：ガイドヘルパーさんと練習をしました。

Q 移動支援時のどのタイミングで練習をしましたか？

齊野平：始めは帰る時に電話をして練習をしていました。テレフォンカードは世話人さんが買ってきてくれます（自費）。



Q ホームではどんなことをして過ごしていますか。

齊野平：自分の部屋でＴＶを観て過ごしています。

ゆっくりとして過ごしていることもあります。

昼食は世話人さんと一緒にローソンに買い物に行って食べています。自分で電子レンジで温めて自室で食べています。

Q　自宅外泊をした時に、家出したことがありましたね。（笑）

齊野平：覚えていないw。

　12 月 31 日に自宅外泊をしていた時に、お父さんと喧嘩して、「出て行け」と言われたので出て行った。歩いてホームに帰ってきました。

Q ホームまで帰ってくる道を覚えていたのは凄いですね。良い所を伸ばしていってくれたらと思います。

齊野平：はい。

Q 次は日中のことを教えてください。生活介護事業所ではどんなお仕事をされていますか？

齊野平：歯ブラシの内職と缶の内職をしています。

Q 缶をどうしているのですか？

齊野平：缶を潰す作業です。両手で潰しています。ペシャンコにしてしまうと回収業者に怒られます。仕事は楽しいです。

Q 皆と仲良く仕事はできていますか？

齊野平：仲良くできています。

Q 担当職員さんは優しいですか？

齊野平：優しい。初めてする作業の時は丁寧に教えてくれます。

Q ホームで世話人さんは優しいですか？

齊野平：世話人はみんな優しくて喋りやすいです。

Q 移動支援ではどんな所に行かれますか？

齊野平：月２回自宅から出かけて、ホームに帰宅することも月に１回しています。

　歩いて総持寺まで行っています。総持寺で入店をして食事を取っています。

　他には安満遺跡公園や京都の漫画ミュージアムに行きました。楽しいです。

Q これからもお出かけできそうですか？

齊野平：できる！！

Q 相談支援はどう思いますか？

齊野平：優しい。これからも何かあったら相談できる！！！

長時間、ありがとうございました。

インタビューを終えて

　インタビュー時には上手く言葉で気持ちをまとめることが難しい場面があり、筆談でお気持ちを伝えてくださったり、世話人さんに助けてもらいながら答えてくださいました。

（取材：相談支援センタースキップ
堀本　圭佑）

庄司　あゆさん　短期入所事業部「レスパイト」を利用「お話、聞かせて」

庄司　あゆ さんのプロフィール

- 1997 年生まれ。
- 学校卒業後2015年～チューリップへ。
- 趣味はドラマ鑑賞
- 花の会では、当事者活動にも積極的に参加されています。
- ４月の運動会では、司会を担当されたそうです。

Q 他に楽しみはありますか？
庄司：ドラマ。朝ドラ見てます。

Q 好きな俳優さんは？
庄司：ディーンさん！

Q インタビュー、よろしくお願いします。
庄司：緊張する～。

Q レスパイトはいつごろから利用していますか？
庄司：中学２年くらいだと思う。

Q 今何歳ですか？
庄司：25 歳。

Q ということはもう 10 年以上利用していることになりますね。
庄司：日帰り（日中一時）と泊り（短期入所）で利用しています。

Q もう大ベテランですね。
庄司：そうかなぁ～

Q レスパイトではどんな風に過ごしていますか？
庄司：おしゃべりしたり、YouTube を見たり、UNO をしたり・・・。

Q 他のメンバーと UNO するんですか？
庄司：メンバー、スタッフと。真剣勝負！

Q 庄司さんは強いですか？
庄司：勝ったり負けたり。

Q 時の運ですね。仲の良いメンバーはいますか？
庄司：Ｋさん、Ｏさんかな。どっちも女子です。

Q どんな話をするんですか？
庄司：恋バナ！！

Q それは楽しそうですね。
庄司：たまに女子だけの日があって、女子会やります（笑）。

Q なるほど。かっこいいですよねー。他にどんなことをしていますか？
庄司：ごみ捨ての手伝い。共動舎花の会の入り口のごみ捨て場まで、職員さんと一緒に行きます。

Q お手伝いしてくれてるんですね。ありがとうございます。職員さんとも仲いいんですか？
庄司：みんな仲良し！

Q レスパイトは楽しいですか？
庄司：楽しいです。

Q ありがとうございます。では最後に将来の夢を教えてください。
庄司：う～ん（少し考えて）　モデル。

Q それは素敵！！　ぜひ叶えましょう！

いつも明るく女子力全開の庄司さんでした。

インタビューを終えて

明るく朗らかで、でも少しシャイな一面もある庄司さん。終始緊張気味でしたが、ドキドキしながらも楽しんで受け応えしてくれました。この原稿が花の会ニュースに載ることをとても楽しみにしてくれています。

庄司さん、ありがとうございました。

（取材：レスパイト　橋本　好司）

地域生活支援の報告

宮本 洋 さんにインタビューしてみました！

Q グループホーム「じゅぴたー」を利用中の宮本さんにとって、ホームとは？

宮本： いまいち、はっきりとは分からない。

コロナ禍を経て、「何かあったらホーム」と言われることが増えた。利用するかどうかは自分で決めることができるはずだけど、そうはなっていないと感じることもある。

でも、ホームにはホームの、家には家の良いことがある。生活のパターンの一つとして捉えているけど、「ホーム＝家」とは今は正直言いきれない面がある。仕事場から近く、歩いて通勤できることや、自分のペースで過ごせる日があること、世話人が変わることで僕自身の交流の幅が広がり楽しみのひとつになっているのは良いこと。

ルールは守ったうえで、あまり考えすぎず好きに、自由にさせてほしいと思う（笑）。

Q 今後の展望などはありますか？

宮本： コロナ禍で中止していた旅行を再開していきたい。

自身で「３Ｓ交」（スリーエスこう）と名付けた公共交通機関を利用した旅行を2025年には完全に復活させたい。

※「３Ｓ交」とは、３（スリー）Ｓ（シーズン）交（交通旅行）の略で、春、夏、冬の青春 18 切符の発売時期を基にした旅行のこと。

オフシーズンは交通利用を控えるようにし、趣味である路線バスや、鉄道の本を読むこと。友花会や四季路、ピープルファーストに参加し行くことを検討中。

宮本： オフシーズンに、交通利用を控えるのは自らに課題を設け ３Ｓ交をより楽しむため。花の会には、インスタグラムや Twitter などのＳＮＳを活用して時代に合わせた取り組みを進めてほしいと思うし、その中に入っていろんなことを発信していきたい。個人的に考えているのは、府営住宅の公園でダンスしたり、通勤路の花や景色などを通した季節の変化だったり、工事現場の変化を気軽に発信したい。

そのために、電話やメールをするためじゃなく、インターネットで繋がったスマートフォンを持つのが今の目標。できれば、スマートフォン、スマートウォッチの購入に合わせ、パスポートを取得し、自身の趣味の領域を大きく広げたい。ＳＮＳを通して情報の発信も行い、今までとは違う「ＮＥＷ.３Ｓ交」を世界のトレンドにしていきたい。

（フラワーホーム　立岩　信亮）

はいびすかす

ガイドヘルパー養成研修講座　を再開します。

2023 年度　スタートに寄せて

「サポートセンターはいびすかす」は、昨年度まで、就労・相談支援部門に所属しておりました。今年度から、地域生活支援部門の所属となり、業務内容は変わらず、利用者様の日常生活のお手伝いをさせていただいております。

約３年続いた新型コロナウイルスによる「行動制限」では、外出を制限されてきました。

ガイドヘルパーと外出し、誰にも気兼ねすることなく、余暇活動を自由に過ごす時間がようやく戻ってきました。短時間の近隣散歩、長時間のお出かけは、ヘルパー・利用者がお互いに新しい発見や喜びを得る時間でもあるとともに、住み慣れた地域でいつまでも生活が続けられように支援していきたいものです。

３年間休止していました、ガイドヘルパー養成研修の「知的障がい課程」「同行援護従業者(視覚障害)」講座の１０月開講に向けて、準備を進めております。

後日、詳細はお知らせいたしますので、多くの皆様の受講をお待ちしております。

（サポートセンターはいびすかす　三原　道恵）

日中活動支援の報告　生活介護

シイタケ栽培　試験的ですが・・・、始めました

「ひらかた　くすの木」では、新事業所に移転し、新たな生産活動として、「シイタケ栽培」を導入しました。２月中旬には、株式会社アシストジャパン（シイタケハウス施工・栽培業者）の担当者の方に来ていただき、生産工程や栽培の手順などの講習会を開催し、シイタケハウスでの菌床栽培を試験的に始めました。

３月６日に初めての収穫をしたところ、予想以上の収穫となり、メンバー含め、みんなで驚きました。メンバー数名と初収穫を行い、ご家族やワーカーに販売。購入された（押し売りですが）ご家族からは「おいしく料理ができましたよ」「肉厚もあり、しっかりしていましたよ」などの嬉しいお言葉や調理した写真をいただき、概ね好評でした。

初めての試みということもあり、今後安定した収穫が見込めるかどうかは未知数ですが、無理をせず地道に少しずつ、メンバーが楽しく関われるような生産活動として取り組んでいきたいと思います。

（ひらかた くすの木
田中　弘樹）

初　め　て　の　収　穫

２回目の収穫に
向けての菌床

「大空へはばたこう～自立への挑戦～」
映画上映会に参加しました

６月１５日（木）１３：００～、東大阪市文化創造館で、社会福祉法人創思苑パンジー主催の「大空へはばたこう～自立への挑戦～」映画上映会に参加しました。

〝同じ知的障害のある仲間にも、入所施設から出て自由に生きてほしい〟という内容でした。今年のピープルファースト全国大会 in 大阪のテーマにリンクしているので、勉強のため参加しました。

みんなの会を代表して、第２共働舎花の会代表の瀬古佳奈さんに感想をお聞きしました。

◉上映会に行ってどうでしたか？
瀬古：映画を見て勉強になった。いろんな暮らし方があって自立ってすごいなと思った。私は無理かな(笑)。
◉どんな映画でしたか
瀬古：１部から４部まであった。職員の方がメンバーのことについて話していた。いろんな話が聞けて良かった。ドラえもんのぬいぐるみを持っている人も出てきた！

上映会がまたあったら行きたいし、他のイベントや活動にも参加してみたい。

次は電車で行ってみたい。

～　～　～

当日参加できなかったメンバーが観られるようにDVDを購入しています。　当事者会で話し合い、上映会を行いたいと思っています。お楽しみに！

（たんぽぽ亭　一安　徳美・
第２共働舎花の会　奥村　真奈）

新メンバー紹介コーナー

共働舎花の会　Ｃ班
島田（しまだ）　将汰（しょうた）　さん

花の会は楽しい。アルミ缶の回収や納品の作業が好きで、トラックに乗れることが楽しみ。
ワークたんぽぽのポップコーンがお気に入りだとか。

はなみずき　給食班
佐藤（さとう）　あゆみ　さん

暑い中、いろいろな仕事をしています。たくさん、細かい所もしています♪♪

はなみずき　Ｃ班
納村（のうむら）　海涼（みすず）　さん

クレヨンしんちゃんが好きです。
パンがんばるぞ～♡
みんなと仲良くします。
よろしくお願いします。

第４共働舎花の会　ラベンダー
土井（どい）　友美子（ゆみこ）　さん

頑張ってお仕事したい。
皆さん、コロナに気を付けてください。

共働舎花の会　Ｂ班
本城（ほんじょう）　翼（つばさ）　さん

好きな作業は、アルミ缶潰し。
好きな歌手は「テレサ・テン」だそうです。
皆さん、よろしくお願いします。

７月８日　日中の夏祭り

ＨＫＵの皆さんにメンバーも加わって♪♪

メンバーが楽しい１日を過ごしました

毎年７月初旬に開催している夏祭り。コロナの余波のため、日中活動支援事業所内での開催としました。

くじ引き、何が当たったかな？

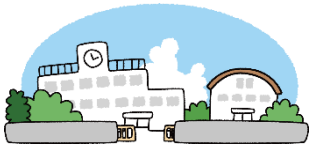
輪投げゲームのコーナー

コイン落としゲームのコーナー

児童通所支援の報告

みんなの学校上映会及びインクルーシブ教育を考える講演会開催について（後編）

４月 15 日に開催（主催：高槻事業所連絡会、後援：高槻市、高槻市社会福祉協議会）された上映会・講演会。皆さんは「みんなの学校」（配給：東風）を見られたことはありますか？2014 年度に配給が始まった映画です（レンタルや、オンデマンドでの配信はないので、上映については HP 等、こまめにチェックする必要あり）。



大空小学校の日常をベースに物語は進んでいくのですが、そこでは、障害のあるなしに関わらず、誰もが受け入れられる、そんな学校が描かれています。上映会終了後の木村泰子さん（大空小学校初代校長）、一木玲子さん（東洋大学客員研究員）、佐々木サミュエルズ純子さん(わくわく育ちあいの会代表）に登壇いただき、「インクルーシブ教育」についてさらに掘り下げていきました。

インクルーシブ教育がより進んだ地域の方が見れば、大空小学校の取り組みは「当たり前」の光景なのかもしれません。しかし多くの地域でそうはなっていません。大空小学校の取り組みは特別なのか。非現実的であり理想論なのか。障害の有無で分けて、特別な訓練・指導を受けるべきなのか。講演の中で木村さんは「私たちは専門家ではなかった」と話されました。教師として、また共に学ぶ仲間として「障害のある子」ではなく、個々に向き合い、ぶつかり合う。それは〇〇療育のように理路整然としたものではなく、問題行動をなくすための対処療法的関わりでもなく、ただ本気で向き合う大人と子どもの姿がありました。個人の問題解決を目指す医学的な関わりからゴールを目指すのでなく、一人ひとりの違いを認め合える社会の変容からゴールを模索する方法であると感じました。一木さんは、総括所見を突き付けた国連障害者権利委員会と日本の「インクルーシブ」は捉え方が根本的に違うこと・・インクルーシブ教育とは結果ではなくプロセスであることを話され、佐々木サミュエルズ純子さんは多様な中で大人も子どもも学び合うことこそが、この問題の根本的な解決に繋がる取り組みであることを経験、感じたことから話されました。

国が進める施策の評価が出るのは、数十年も先になるかもしれません。どうしたらいいのか、正直分からないのですが‥、まず一人ひとりが問題意識、疑問を持つことがスタートで、今の取り組みの延長上からではなく、それぞれの立場で考えること。卵が先か鶏が先かではなく、小さなことでも何ができるのかという視点が必要なのかなと感じました。参加された方はどう思われましたか？皆さんの地域で、ぜひこの問題を考えてください。

（さくらクラブ　平田　昌史）

「交流の場」＆「野外交流会（オータムキャンプ）」について

保護者の方々が自由に交流できる場所・時間を作りたいと、以前から話がありましたが、新型コロナウイルス流行のため行動制限などがあり、中止になってばかりでした。感染が落ち着いてきたこともあり、今年は２月と６月に「交流の場」を開催することができました。まだまだ始めたばかりですが、保護者の方々の交流やお互いの心配事などを話す機会になったかと思うので、今後も続けていければと考えています。

また、今年度は「野外交流会（オータムキャンプ）」

も開催する予定です。前回は３年前‥摂津峡青少年キャンプ場にて、児童・保護者・職員合わせて約 70 名で、焼きそば、豚汁を作り、ゲームなどをして交流しました。参加希望アンケートでご意思をお聞きしたところ、約 100 名が前向きに参加を考えていただいているとのこと。どのような形で開催するのか検討していきますが、親子で楽しめる場になるとともに、保護者の方同士が知り合うきっかけの場になればと思います。（あさがおクラブ　古谷　由紀子）

就労相談支援の報告

～　就労支援センター フォルツァ に異動して　～

私は、花の会に入職して地域生活支援部門のグループホームの職員として 12 年間携わり、今年の４月より就労・相談支援「就労支援センター フォルツァ」に異動しました。

これまで支援者としての私を育ててくれた利用者・ご家族の皆様、ありがとうございました。

フォルツァでは、就労移行支援、自立訓練(生活訓練)、就労定着支援の事業を行い、社会参加、支え合う社会の構築に努めています。「働きたい！」という方々に必要な基本的スキルを身に付けてもらい、就職につなげていくことを目的としています。

高槻市の事業所として初めての「訪問型自立訓練」では、通所が難しい方に、自宅という馴れた環境の中でプログラムを提供し、訪問から通所との併用、通所、就職へと段階を踏んだ支援を行っています。

運営面では、職員がチームとして関わり、親近感を持ってもらい、利用者の声を反映できるよう、職員との意見交換会、グループワークなどを実施して施設環境や支援の改善に努めています。また、定着支援として、就労者の「卒業生の集い」を毎年開催して、愚痴も語り合い、先輩から定着のコツを教えてもらうなど、横の繋がりも広がるように努めています。

今年度も他の支援機関、医療機関、行政と連携して、利用者のニーズを実現する運営体制の構築に取り組んでまいります。

就労へ一歩踏み出そうと思われる方の参加をお待ちしています。

（就労支援センター フォルツァ　河野　一生）

～　この度、入職しました　～

はじめまして。

この度花の会に入職いたしました、森 理史と申します。現在、「高槻市障がい者就業・生活支援センター」にて相談員として勤務しております。今年１月に花の会に入職し、早６か月が経ちました。

センターに相談に来られる方や企業の方々、また他の支援機関の方からお話を伺いながら、働くことや働き続けることについて一緒に考えたり、サポートを行っています。今は、それぞれの考えや希望を受け留め整理していくことや、丁寧に関わることの難しさを実感しております。

働くことは生活の一部なのかもしれません。しかし働くことが、その方にとっての豊かさに繋がるものであるかどうかが大事なのではないかと思います。これからその一端に関わらせていただくことができればと思っております。

今後も職場の皆さまから日々業務を教わりながら、焦らず一歩ずつ慎重に、しかし着実に成長していけるよう努力してまいります。

（高槻市障がい者就業・生活支援センター
森　理史）

法人の報告

2022 年度　社会福祉法人花の会 事業報告・会計報告

2022 年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、メンバー100 名、職員 87 名が感染。事業所の活動自粛は１事業所、平均５日間、７事業所におよびました。

そのような中、「エピソード記述をやってみよう」をテーマに研修を受け、全職員がエピソードを記載し、学び合う取り組みをしました。昨年 11 月には、ひらかたくすの木の新築移転が完了し新しい事業所での活動が始まりました。共働舎花の会は萩谷月見台の農地整備が完了し、近隣の方をお招きしてお披露目会を開催しました。

財務的には芳しくなく、本業の収益である、サービス活動収益は前年度決算から62,427,560円増加の 1,228,556,802 円でしたが、費用は前年度決算から 103,095,660 円増加の 1,290,911,178 円となり、62,354,376 円の赤字となりました。コロナ禍で支援費収入の伸びが低調であったことと、生活基盤を支える先行投資を行っているものの収益につながっていないことが原因と考えられます。2023 年度は、設立40周年の取り組みとともに赤字幅を縮小していく取り組みを行ってまいります。

（業務執行理事　成瀬　修）

法人単位事業活動計算書

（自）2022 年４月１日（至）2023 年３月 31 日　　（単位：円）

勘定科目			当年度決算	前年度決算	増減
ｻｰﾋﾞｽ活動増減の部	収益	サービス活動収益計（1）	1,228,556,802	1,166,129,242	62,427,560
	費用	サービス活動費用計（2）	1,290,911,178	1,187,815,518	103,095,660
	ｻｰﾋﾞｽ活動増減差額（3）＝（1）-（2）		△ 62,354,376	△ 21,686,276	△ 40,668,100
ｻｰﾋﾞｽ活動外増減の部	収益	サービス活動外収益計（4）	26,780,956	19,092,564	7,688,392
	費用	サービス活動外費用計（5）	54,066,729	16,527,558	37,539,171
	ｻｰﾋﾞｽ活動外増減差額（6）＝（4）-（5）		△ 27,285,773	2,565,006	△ 29,850,779
経常増減差額（7）＝（3）＋（6）			△ 89,640,149	△ 19,121,270	△ 70,518,879
特別増減の部	収益	特別収益計（8）	183,326,796	8,656,796	174,670,000
	費用	特別費用計（9）	181,325,801	7,567,528	173,758,273
	特別増減差額（10）＝（8）-（9）		2,000,995	1,089,268	911,727
当期活動増減差額（11）＝（7）＋（10）			△ 87,639,154	△ 18,032,002	△ 69,607,152
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額（12）		605,282,264	622,461,271	△ 17,179,007
	当期末繰越活動増減差額（13）＝（11）＋（12）		517,643,110	604,429,269	△ 86,786,159
	基本金取崩額（14）		0	0	0
	その他の積立金取崩額（15）		24,042,005	6,165,000	17,877,005
	その他の積立金積立額（16）		0	5,312,005	△ 5,312,005
	次期繰越活動増減差額（17）＝（13）＋（14）＋（15）－（16）		541,685,115	605,282,264	△ 63,597,149

２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２・２　東興ビル４階　定価１００円